

平成29年2月13日

三重大学教職員組合  
工学部支部執行委員長  
田村 雅史 様

三重大学大学院工学研究科長  
清水 真



### 公開質問状への回答

平素は工学部・工学研究科の運営にご協力いただきありがとうございます。  
質問事項に関しまして、以下のように回答致します。

#### 質問事項

1. 7月22日付け公開質問状に対する回答(書面20行目)にて、「工学研究科においては、  
～(中略)～、～(中略)～、今回、期間を限定して技術職員の欠員ポストを大学教員(助教)  
に充てることとなりました。とありますが、

(1) 工学部技術部として、技術職員の欠員ポストを大学教員(助教)に充てることを合意した事  
実はありません。いつ、誰が、どのような場で、本内容を合意したのでしょうか。回答をお願い  
致します。

この学長からの回答は、今回初めて拝見しました。なお、学長からの回答ですので、基本的に、  
私はこの回答文に関して答えられる立場にないと思います。

(2) テニユアトラック制度は任期の後、正規に採用するのを基本としていますがその場合新た  
な空きポストが必要となります。このことは将来にわたり、工学研究科全体の採用計画に影響を  
及ぼすと考えられます。そのことを工学研究科全体に周知し理解が得られているのでしょうか。

本学の第三期中期目標・中期計画において、以下が明記されています。

- 1) 多様で優れた教員組織を編成するため、優秀な若手教員、外国人教員の登用を推進します。
- 2) 教員の更なる意欲向上と能力発揮に資するため、年俸制・テニユアトラックを推進します。

今回の新たな教員採用方策は、教育研究活動等の機能強化を図る観点から第三期中期目標・中  
期計画の達成に資するものと考えられます。また、工学研究科全体にも研究科長室会議、専攻長  
会議及び教授会での学部改組の説明の中で、すでに周知しています。

2. 改組に伴う大学院構想が12月初めの文科省との交渉において、先送りになったと聞いており  
ます。それに伴い、協創工学センター設立も先送りとなるため、助教振り替え問題の結論を急ぐ  
必要はないと思いますが、如何でしょうか。

今回のこの技術職員の助教への振替は、三重大学機能強化構想の戦略3、「地域の力の発信機能  
の強化」の中で、「世界で活躍する博士人材養成のための大学院教育改革」のプロジェクトに含  
まれ、平成28、29年度での協創工学センター形成計画の一部であります。したがって、終了  
後、文科省への実績報告も求められますので、基本的に先送りは困難であります。

以上